


受賞者氏名	熊倉 潤	
所属	法学部 国際政治学科	
受賞年月日	2022年11月8日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	公益財団法人 樫山奨学財団	
受賞名	第17回樫山純三賞一般書賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>中国(中華人民共和国)の政治を研究しております、熊倉潤と申します。専門は、ソ連と中国の民族政策で、特に新疆ウイグル自治区をフィールドとしております。この度、新疆ウイグル自治区の現代政治史を扱った『新疆ウイグル自治区: 中国共産党支配の70年』(中央公論新社)が、上記の賞を受賞しました。</p> <p>近年、新疆ウイグル自治区の問題は、民族問題としての面だけでなく、深刻な人権問題として、世界的に注目を集めています。しかし同地の政治史、とりわけ中国共産党の統治が始まってから現在に至る約70年間の歴史を扱った本は、意外なことに、日本はもちろん、世界的にもほとんどありませんでした。この点を補い、問題についての理解促進の一助となればと思ひ、書き上げたのが本書です。このような著作は、世界的に見ても珍しく、2023年2月に台湾の八旗文化から繁体字中国語版が翻訳出版されました。</p> <p>それから本書は、新疆問題の歴史的背景を、主に中国語の資料をもとに、実証的に論じています。私の立場は、「あとがき」にもあるように、在外ウイグル人や欧米の側に偏らず、かといって中国側の主張に同調するものでもありません。第三者的な立場から、政治学者として冷静な筆致で通史を描くことに腐心しました。</p> <p>私は政治学者として、これまでの研究が答えてこなかった問題に答えを出しています。具体的には、「終章」において展開されるジェノサイドの議論です。本書は、新疆の人権状況をジェノサイドと断定して中国を非難するものではなく、ジェノサイドでないと主張して中国を弁護するものでもありません。</p> <p>本書の議論は、ジェノサイド条約におけるジェノサイドの定義から出発し、ジェノサイドの概念と現実の政策とがどの点で一致し、どの点で異なるかを冷静に検討しています。そのような政治学的な研究は、分析の手法としては一般的であるにもかかわらず、これまで新疆問題という敏感なテーマを前に、あまり行われていませんでした。</p> <p>分析の結果として私は、中国の政策はジェノサイドという言葉が含意する民族の絶滅というより、民族の改造という特徴を持っていると論じました。その上で、中国共産党の新疆政策は、既存のジェノサイドの概念では表現しきれない次元に達している可能性を指摘しました。</p>	